



NPO法人 自立へのかけ橋の活動

理事長 園 武友

自立へのかけ橋は、児童養護施設二葉学園の卒園生を中心に職員、元職員が参加して平成22年度に発足しました。活動としては、社会的養護施設出身者(以下当事者という)の自立後の実態を知る目的で平成23年度に「社会的養護施設等および里親出身者実態調査」及び、平成25・26年度に当事者がパネラーになってのシンポジウムを開催しました。

【報告書は自立へのかけ橋のホームページに掲載しています】

その中で、当事者が社会に出て困った事としては、

- 施設出身者と言えない
- いきなり一人になり寂しかった
- 施設生活では、社会の一般常識が身につかず自立した時に戸惑った
- 転職や引越しの時に身近に保証人がいない
- 大学等に進学しなかったが、経済的支援が少なく不安で諦めた

などでした。

18才で自立した多くの当事者の、「施設出身者といえない」という言葉でもわかるように、自分をさらけ出して人との関係を築く事が難しいと感じるとともに、高校卒業・高校中退の学歴しかなく、コンプレックスを抱いていました。このような現実の中で、孤立感・孤独感をひしひしと感じながら、自立したのだからと一人で必死に生きています。

最近では、児童福祉法が改正され、アフターケアの充実や、大学進学者には22歳まで施設に在籍が認められたことなど、20歳代への公的支援は拡充してきています。しかし、当事者の中には30歳以上になっても、親子・夫婦・兄弟間での葛藤や身体的・精神的疾患により経済的に窮している方が多くいます。

当法人は、こうした方々への相談や支援を行うとともに、子育て世代の当事者への子育て広場、当事者同士の懇親会、先輩の当事者とこれから社会に出る在園児との巣立ちを祝う会などを行っています。我々の活動は、人的にも財政的にも小規模ですので些細な活動ですが、我々が活動をする中で、「NPO法人日向ぼっこ」をはじめとして、当事者の方々が運営するグループが全国に存在し、「アフターケア相談所 ゆずりは」など親身に相談にのる団体や、当事者の居場所としてのシェアハウスを運営する団体、及び二葉学園の卒園生姉妹が八王子で「子ども福祉B-POWER」を立ち上げ、当事者と地域の方々との交流イベントを開催していることを知りました。

私たちの活動やこれらの活動は小さい輪ですが、それらの活動を相互に連携し合える輪のつながりとしての大きなリンクに育てることが今後の課題だと思っています。



ステップアップホーム制度を利用して

調布市において平成29年度より、児童養護施設を巣立つ児童に家賃の補助を行う新事業が実施された。正式名称は、「調布市児童養護施設退所者等支援事業費助成金交付(仮称：ステップアップホーム)」である。概要は、法人が調布市内の住居の賃貸借契約を結び、その住居を卒退園生等に貸し、調布市が家賃助成金を出してくれる制度である。自己負担金は、初期費用及び家賃1万から2万円。今年度、二葉学園から一人の児童が申請を行い、現在調布市内で一人暮らしをしています。

私は現在身寄りがなく、高専進学を奨学金とアルバイトでまかなうために奮闘しています。今年度施行されたステップアップホームのおかげで生活を送る事ができ深く感謝しています。そして、同時に約7年間の生活、成長に寄り添い、将来を定める手助けをしてくれた二葉学園、二葉全体に深く感謝しています。

まだまだ、半人前であるので、アフターケアを含め、たくさんの方々に助けていただくことも多くありますが、来年から社会人となるので、皆様に支えて頂いた事を心にとめ、社会のために自立してがんばりたいと思います。
(二葉学園卒園生 T. T. さん)



大学進学が決まって

私は18歳になって直ぐに自立援助ホームトリノスに入りました。入った当時は人見知りして、コミュニケーションがうまくとれず、新しく始めたアルバイト先では、どこをみたらいいのかかわからないような感じでした。生活するうちに、職員やアルバイト先の人たちと話せるようになりました。トリノスに来る前と比べると、かなり話せるようになってきていると思います。これも、日ごろから話をしてくれる職員がいるからです。

そうしているうちに1年がたちました。19歳になり、周りの友達は高校を卒業し、進路が決まっていました。児童養護施設に入っていた友だちも自立をしていました。かなり焦りを感じていました。職員から行ける大学があると聞いたので、進学を決めました。進路に関しては、とても丁寧にそして熱心に協力してくれました。そのおかげで大学に合格することができました。トリノスに入った時には、大学に進学するなんて考えてもいませんでしたので、とても嬉しかったです。

トリノスには、いろいろな人たちからの寄付があり、生活水準は高いと思います。この生活の基本の変化で、いろいろなことにチャレンジする余裕ができました。ここで生活をしている自分の見ている世界は、家にいた時の自分が見ていた世界からみるとかなり変わりました。これもトリノスのおかげです。このような施設が増えていくとよいと思っています。(トリノス利用者 D. Y. さん)



二葉奨学金を利用して



私は昔からゲームが好きで、高校で進路を考える際、迷わず「ゲーム・クリエイターになりたい。その為の専門学校に行きたい。」という思いに従って進学することを決めました。

高校一年生の時からしていたアルバイトの時間を増やし、進学するための学費や、進学後の生活費を貯めていましたが、どうしてもあと少し足りない状況でした。このままだと進学しても、勉強よりアルバイトをしなければ生活ができず、学校も行けないのではと不安がありました。

しかし、T. F. さんの支援のおかげで、足りなかった部分が解消し、今では無理なアルバイトをすることもなく、勉強とアルバイトの両立が図れています。

今も専門学校で日々勉強をし、ゲーム・クリエイターになる夢を目指しています。

これから就職活動も始まるので、今までより気を引き締めて、夢に向かって歩いて行こうと思います。
(二葉むさしが丘学園 卒園生 K. K. さん)

りんごカフェ



地域交流事業として、10月6日の金曜日の夕方にふたばりんごカフェをオープンしました。

現在社会福祉法人は地域への多様な役割りが求められています。我が法人も地域貢献事業として何が出来るかを考えました。様々な案が出ましたが、まずは普段子育てを頑張る保護者の方達がほっと一息つける憩いの場を作りたいという思いから、二葉ひろばと南元保育園の職員が担当し「ふたばりんごカフェ」を開催しました。就労している保護者の方も参加出来るように夕方の時間に開催しました。ざっくばらんに子育ての話や栄養士と離乳食の話をしたり、わらべうたや絵本の読み聞かせを楽しんだり、お茶を飲みながらゆったりした時間を過ごしました。保育園の保護者からは、同じクラスでも普段なかなか保護者同士話す機会が無いので、良い機会になったとの声も聞かれました。12月に第2回を開催予定です。法人全体で協力し合いながら、地域貢献事業を展開していきたいと思います。

(主任 山崎 雅世)



各施設のアクティビティ

二葉乳児院

どんぐり会

10月初旬、どんぐり会を行いました。乳児院の運動会です。

お部屋ごとに考えた競技やダンス、「こんな事ができる様になったよ!!」と言わんばかりの、たくましい姿を披露してくれた子どもたちでした。

汗をかいて頑張った後は、みんなお楽しみのお弁当タイムです。

ご家族、職員も一緒に輪になり「いただきます!!」

1人ひとつずつに用意されたお弁当には、チューリップの唐揚げ、ロールサンドウィッチなど、子どもたちのリクエストを詰め込みました。アレルギーのある子どもも、みんなと一緒にものを食べられる様にと、食材も選びました。

おかわりを両手ににぎりしめ、お弁当をほおぼる、食べる事が大好きな子どもたち、最後まで元気いっぱいでした。

(調理師 玉川 美好瑠)



二葉学園

夏行事



夏行事の自転車プログラムで半日かけて熱海の峠を越えるところ。

自転車プログラムでは、中高生10名を連れて本園のある東京都調布市から静岡県清水区にある三保内浜海水浴場まで自転車で行って来ました。約180kmの道のりを三日かけて走りきました。熱海峠を越えた二日目は皆疲れ果てていましたが、完走した達成感は夏一番の思い出になったと思います。

(養護主任・児童指導員 赤瀬 正樹)



夏行事の幼児のプログラム、ツリーハウスに泊まりました。

幼児を対象としたツリーハウスプログラムでは、栃木県那須郡にあるサンタヒルズというキャンプ場の素敵なツリーハウスに泊まってキャンプを楽しんできました。BBQや川遊び、流しそうめんにスイカ割りなどイベントが盛りだくさんとなり、子ども達にとっても良い夏休みの思い出を作ることが出来ました。

(GH担当・児童指導員 草野 彩佳)

11月の三連休の中日に、本園内にある小さな畑でお芋ほりをしました。

最初は改築後にできた小さな空地、そこから二年、初めは土を耕すにもスコップは入らないし、少し掘ると石が出てくると言う状況でした。そこに少しずつ手を入れだんだんに花が咲くようになり、今年は花の中の一部がさつま芋畑に変身を遂げました。

夏の暑さで“ぴんち”もありましたが立派なお芋が育ちました。

小さな畑でできたお芋は子ども達の手で大切に掘った後、その日のおやつの焼き芋へととなりました。一つ一つですがいろいろなことができるようになっていくのだと感じています。

(事務主任 今村 摂)



自立援助ホーム トリノス

ひとり暮らし

開設して1年半、初めてホームを退所する利用者が現れました。開設してまもなく入所した利用者なので、ホームの職員も試行錯誤しながらの支援でした。彼は、途中何度か挫折しかけてホームを飛び出そうとしたり、自分や他人を傷つけてしまうこともありました。仕事も色々経験しましたが、ようやく肌にあうものを見つけ、自分でアパートを探して契約し、今は仕事の合間を見ては、引越し作業をするのがうれしくてたまらない様子です。月末に退所手の予定ですが、私たちも自分たちの支援が十分だったのか、伝えそびれていることはないかと心配になりながらも、1年半前とは見違えるくらいたくましくなった彼の表情に頼もしさを感じます。彼の人生の新たな船出はきっと楽しいことばかりではないと思います。むしろたくさんの苦労や挫折が待っていることでしょう。そんな時に、彼がもう一度立ち上がるためのサポー

トができるよう、これからも見守り続けたいと思います。

写真は彼が自炊訓練の日に、さばいてくれたイナダの刺身です。昔料亭で見習いをしていたことがあり、その腕前を披露してくれました。みんなにスゴイと褒められ、はにかんだ笑顔がとても印象に残っています。

(ホーム長 渡辺剛史)



今年度の運動会は、保育園近くにある中学校の体育館にて行いました。

夏から練習を重ねて本番を迎えた子どもたち。かけっこ、保護者と力を合わせる保護者競技、縦割りグループでの玉入れやリレーなど、全力で取り組む姿がありました。保護者競技では、保護者の方がクラス対抗でボール送りリレーし、子ども達は応援する番になって声を張って声援を送り盛り上がりました。

そして最後は、誰よりも一番練習していたゆり（五歳児）組のソーラン節、会場中が感動するほどのカッコいいソーラン節を披露しました。どのクラスも、楽しみにしながら練習してきた運動会、練習以上に力を出し切れた子、沢山の観客や会場の雰囲気緊張してしまった子、それぞれの思い・姿がありましたが、一人一人の成長を大きく感じられる行事でした。

（保育士 池田 樹璃）



二葉くすのき保育園

実りの秋!!



調布市柴崎にある農家まで4歳、5歳の子どもたちとお芋掘りに行ってきました。

“新春の集い”のお囃子で毎年お世話になっている金子囃子連の方の畑で、地域のつながりを感じながら、子どもたちに貴重な体験をさせていただいています。

「さつまいもはどこだ?」、「つちのなかにみえるよ!」と、互いに会話を交わしながらスコップを片手に土を掘り起こす子どもたち。

「スコップより手で掘った方がはやい!!」といわんばかりに両手で夢中になって土をかき分けていく子もいました。

つるに連なるお芋を両手で引き抜き、満面の笑みで「みて——!こんなにおっきいおいも!!!」と、あちらこちらで秋晴れの清々しい蒼空に子どもたちの歓声が響き渡っていました。

持ち帰ったさつまいもは給食室で調理をしてもらい、小さい子どもたちも美味しい秋の味覚を楽しみました。

（園長 森本 裕美）

職員資質向上助成事業を利用して

私は、法人の職員資質向上助成事業を利用していただいて、平成29年3月に社会福祉士資格を取得することができました。正直に言うと資格取得のために養成校の願書を取り寄せた時は、2ヶ月に4本のレポート、定期的にあるスクーリングと仕事を両立できるか全く自信がないのに、な・ぜ・か・今やらねばという妙なやる気だけでのスタートでした。

実際学習が始まった当初は、テキストや参考文献を数ページ読むだけで眠気に襲われるという状態でしたが、

学習が進んでいく中で、これまで私が仕事を通して関わってきた様々なことと、学習内容が密接に関係していて、知らなかった様々なことを覚えること、それらが繋がっていくことに楽しみを感じて、完全に「はまって」しまい、通勤中に電車が止まったら「よし！」と思うほどにテキストや文献を読み、知ることの楽しさを感じていました。

レポート課題終わると(一応無事に皆合格)、その後には待っていたのは国家試験対策。これまでの人生で体験したことのないプッシャーと、広大な試験範囲におぼれそうになりながら。何とか波を乗り越え、へとへとになりながらの試験当日。途中からほとんど記憶もなく……。自己採点をしたら6問中3問しかあっておらず……。真っ白の灰のまま合格発表日を迎えました。同じ試験を受けた法人内の数人の職員が、ネット上の合格発表を確認して合格だったと聞き、もともと自信のない私は、自分だけ不合格だったと……。余計に不安になり。家に帰り、大きい封筒が届いていて合格を確認した時は、「おっしゃ!!」と思わず大声をあげてしまったほどです。

私は、社会福祉士資格取得までの学習を通して、今の日本社会は人それぞれが豊かになり、自由なライフスタイル築けるようになったけれども、多様化

した生活は様々な課題を生み出す結果になったり、家庭が本来持っていた機能が外部化して、機能が弱くなったりしたこと等が家庭に影響を与え、子どもの貧困問題や虐待問題などに顕在化してきているのだと感じました。また、周りの家庭には迷惑をかけないで、自由な空間やライフスタイルを獲得した現代の社会は、周りに頼りながら協力して生活していたころのように、頼るという能力が弱くなってきているのではないのでしょうか。上手に頼れる家庭には支援が届くものの、手を伸ばす力が弱い家庭、支援を得るためのアクションが小さい家庭が多くなってきていて、その小さなアクションに手を貸すことが、これからの子ども家庭支援なのではないかと思えます。

子どもを取り巻く家庭や、地域社会の課題にどの様に向き合い、このような状況をどう変えていくのか、これからの子ども家庭福祉の課題であり、社会福祉の担い手である社会福祉法人、またそこに勤めるものとして取り組んでいかななくてはいけないことだと感じています。

(乳児院主任 橋爪 主税)



「二葉支援の会」への寄付について

二葉保育園では、「二葉支援の会」が中心となって、法人内の各施設の事業や組織運営を支えていく活動を行っています。ご寄付は、年一口5,000円以上をお願いしておりますが、金額は問わず、一人でも多くの方にご支援を頂きたいと思っております。ご入会・ご支援頂ける方はぜひ当法人本部までご連絡ください。

★当法人へのご寄付は社会福祉事業への寄付として確定申告をして頂くと税制上の優遇措置(寄付金控除)が受けられます。詳しくは当法人本部までお問い合わせ下さい。

「二葉支援の会」お問い合わせ

社会福祉法人二葉保育園 法人本部

電話 **03-3341-1205** (平日10時~17時)

E-mail **info@futaba-yuka.or.jp**

郵便振替

口座番号：00120-2-30321
口座名義：社会福祉法人二葉保育園

銀行振込

三菱東京UFJ銀行 支店名：四谷支店
口座番号：普通0506208
口座名義：(福祉)二葉保育園 理事長 遠藤久江

クレジットカード

社会福祉法人二葉保育園ホームページの「寄付のお願い」ページからお手続き頂けます。



社会福祉法人 二葉保育園 概要 (2017年11月1日現在)

法人本部

所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地
TEL：03-3341-1205/FAX：03-5368-1969
設立：1900年(明治33年)
理事長：遠藤 久江
常務理事：武藤 素明
理事：河津 英彦、押切 重洋、福田 敏朗、都留 和光、
町田 とし江
評議員：宮沢 成実、鈴木 美邦、磯谷 文明、市東 和子、
伊藤 陽子、鈴木 重正、金子 恵美、潮谷 恵美
監事：園 武友、乾川 日出夫
職員：4名

二葉乳児院・地域子育て支援センター二葉

院長 都留 和光
児童定員：40名 職員：83名
住所：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地
TEL：03-3359-4578/FAX：03-3359-4596

二葉学園

統括園長：武藤 素明 園長：小倉 要
児童定員：52名(グループホーム7ヶ所を含む)
職員：73名
住所 本園：〒182-0035
東京都調布市上石原2-17-7
TEL：042-482-2578/FAX：042-480-5200

二葉南元保育園

園長：町田 とし江
児童定員：110名 職員：52名
住所 本園：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地
TEL：03-3351-3819/FAX：03-3357-3707

二葉くすのき保育園

園長：森本 裕美
児童定員：100名 職員：41名
住所：〒182-0022
東京都調布市国領町3-8-15 都営くすのきアパート1号
TEL：042-487-8309/FAX：042-487-8326

二葉むさしが丘学園

統括園長：武藤 素明 園長：黒田 邦夫
児童定員 本園：60名(一時保護6名を含む)
グループホーム：18名、職員：65名
住所 本園：〒187-0011 東京都小平市鈴木町1-62-1
TEL：042-344-9911/FAX：042-345-7836

自立援助ホーム トリノス

統括園長：武藤 素明 ホーム長：渡辺 剛史
児童定員(男子)：6名 職員：4名
住所：〒191-0021 東京都日野市石田1-28-10
TEL：042-586-0005/FAX：042-586-0041

